



第7077号

2020年9月28日(月)

菅首相のキャラと話し方

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

◆表情変えず感情押し殺す

第99代内閣総理大臣に「令和おじさん」こと菅義偉氏が就任した。まんじゅう、どら焼きなど新首相誕生にあやかる商品のニュースを見るたびに、特徴を上手く際立たせているものだと感心する。

官房長官としての在任期間は7年8カ月に及び、3200回もの記者会見に立ってきたという菅首相の顔は頻りに目にしてきたはずなのに、これまでは格別な印象を持っていなかった。「スガちゃんまんじゅう」を見て、なるほどこんな特徴があったのかと新鮮に感じた次第である。

むろん話し方も注目したことはなかったが、歴代首相をはじめ政治家の話し方について、折に触れて執筆してきた筆者としては、何とか新首相の「話し方の特徴」を捉えようとここにきて苦心している。

強いインパクトを残さない、地味で冷静な参謀タイプ…官房長官時代を思い起こしてみると、役割のせいだろうが、あまり表情を変えず、感情を押し殺したような抑揚のない声と話し方。受け答えは落ち着いており、失言はしないが、何を考えているのかうかがい知れず、聞き手との間にバリアーを張っているような感じだった。

◆「田舎者丸出しの政治家」

自民党総裁選に出馬した際も他の候補に比べて、国民から見ると「キャラが立っていない」印象だった。

石破茂氏は、演説で熱く力強く語り、テレビ番組でのトークの際は穏やかな話し方、と使い分けている強者であったし、岸田文雄氏はマスクをしていても微笑んでいるのがわかる柔和な表情とスマートな外見、聞きやすいソフトな語り口で安定感があった。

総裁選の結果は決まっているとは言っても、菅氏って一体、どんな人なのだろう？ と思っていたときに、竹下亘氏の推薦の弁にあった「田舎者丸出しの政治家」の一言で、キャラが立った。カリスマ性はないが、実直で誠実な苦労人だと。改めてそういう目で見てみると、「国民のために働く内閣」という少々泥臭い言葉も、真っ直ぐに質問者を見ながら答える様子も、人と成りを表しているように思えてくる。今思えば、当初、何て失礼な表現だと思ったあの一言は最高の賛辞だったのだ。

◆単調でインパクトに欠ける面も

菅首相の就任記者会見での話し方は安倍晋三前首相と比べると、ゆっくりと話しているように感じられるが、字数でカウントするとほぼ同じ。安倍前首相は、話し始めと語尾が早口気味で言葉が流れたり、小刻みに声の調子が上下したりする独特のリズム感があり、プロンプターを使うこともあってか、意識的に左右正面に視線を振り分ける様子と相まって、時にせわしく感じられることがあった。

菅首相は、話し方にほとんどメリハリはないものの、リズムが一定で、語尾の「です、ます」をきちんと言い終えて、間を取るの、落ち着いて聞いていられる。

ただ、安定し過ぎた話し方は、裏を返せば単調でインパクトに欠ける。キーワードとして強調したい言葉に抑揚をつける、話すテンポに変化をつける、ジェスチャーや視線を意識する、国民への問い掛けの言葉を盛り込むなど、聞き手を惹きつける工夫を加えてみてはいかがだろうか。もちろん中味のない話はいくら演出しても国民の心に響かない。首相としての話し方にどのような「スガちゃん」カラーが出てくるのか、期待したい。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003